

平成 24 年度老人保健健康増進等事業について ◆ 理事長インタビュー

福祉用具専門相談員の「能力」開発と「サービス の質!向上へのステップを可視化しバックアップ … 研修ポイント制度の構築に向けて



平成24年度定時総会 2012/5/29

「介護はマンパワーと環境整備との協力体制で」山下理事長

┃┃┃ インタビュー その2◆ 普及リーダー養成研修 修了者 インタビュー 地域のリーダーとして何をすべきか? 新たに見えてきた目標は?



インタビュー その3

福祉用具に関する事故情報、防止策を分類・可視化 「ヒヤリ・ハット事例検索!

平成23年度福祉用具の安全な利用を推進するための調査研究事業の成果 ~公益財団法人テクノエイド協会~





| | 平成24年度老人保健健康増進等事業について◆理事長インタビュー

福祉用具専門相談員の「能力」 開発と「サービスの質」 向上へのステップを 可視化しバックアップ・一研修成イント制度の構築に向けて

調査研究事業」を行う。 能力開発と福祉用具サービスの質の向上に関する 修ポイント制度による福祉用具専門相談員の職業 健健康増進等事業の助成を受ける。本年度は「研 本会は、昨年度に引き続き、厚生労働省老人保

具体的には、ポイント付与および対象となる研

どである。ジウムの実施、福祉用具専門相談員の意識調査なりの内容評価のしくみ作り、普及・啓発シンポ

た。いたかったと語る山下一平理事長に話をうかがっいたかったと語る山下一平理事長に話をうかがっちがっま業として採択されなくともこの事業は行

している努力とその結果を評価したい必須業務を行うために福祉用具専門相談員が

のでしょうか。 ―研修ポイント制度構築は、どのような意味をもつ

ステムをつくりたいと考えたのです。 2007年に専門職の団体として本会を立ち上げ 2007年に専門職の団体として本会を立ち上げ 2007年に専門職の団体として本会を立ち上げ 2007年に専門職の団体として本会を立ち上げ

価はどのようなものなんですか。一福祉用具専門相談員の実力、また、社会的な評

に積極的に参加して得た実力です。 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、 『地域ケアリング』の連載にも書いたことですが、

かったため、各地で大変有意義な研修が行われても、ただし、これまでは人材育成の環境が整っていな

・webページアクセスログ等のデータ分析

事業の概要

•••••••••••

度に関する調査 われている類似制 他の職能団体で行 普及啓発シンポジウム (含む情報発信) 受講結果申請・申請内容の評価・ポイント公表 ・ふくせん独自研修のあり方 ・各種研修等へのポイント付与のあり方 ・研修ポイント制度の全体設計 生涯研修制度の設計 ・参加した福祉用具専門相談員への意識調査 モデル事業の検証 ポイントの管理・表示システム WEBページの構築 修受講状況・研修ニーズ についてのアンケート調 福祉用具専門相談員の研 查(事業所管理者、実務 者双方に調査を実施 般参加者の公募

緊張されるのでは。 各地の研修機関は、

どのような評価を受けるか、

した。 受講者は、 る、という結果につながっているのです。 に恵まれたものとそうでない者との間の実力差が広が それが向上心がある者とない者、 意識の高い事業者や個人に限られていま あるいは環境

各地の研修機関との協力体制も重要

するのも大変なのでは。 イント付与の対象とするなら、 各地で行われている、様々な事業主体の研修もポ その内容を調査

デル事業の始まりということになるでしょう。 に難しいことですね。まずはその洗い出しが今回のモ 各機関のコースごとに検証し、評価することは非常

評判、 側からの評価や感想を重要なファクターと考えていま なるでしょう。 す。これは、ふくせんの各ブロックからの情報が鍵と アンケートやヒアリング調査だけではなく、地元の 実際に受講してみてどうだったかなど、受講生

際にそのとおりなのかどうか地元で確認します。 その機関で実施している内容を提出してもらい、 実

各地の福祉用具専門相談員にとっては、どの研修を受 することができるでしょう。 けるべきかの判断材料となり、効果的にスキルアップ 研修内容とその評価をホームページで紹介すれば、

研修機関にもメリットがあると考えています。 ふ



理事長 (山下 一平 氏 (やまじたいっぺい)
「研修ポイント制度とランキングテスト双方の観点から評価が明確に現され、指導者とも目標ともなるような"カリスマ専門相談員"が生まれるといいですね」。

個人に対する評価、

モチベーションアップという

ただきたいですね。 そのためにも、よりニーズにあった研修等を行ってい とは広告効果もうみますから、集客にも繋がります。 くせんのホームページに掲載され、評価されているこ

評価が見えることで、 る者とが明らかに 向上する者と淘汰され

すいのでは。 査できるとポイント数と実力の関係がわかりや モデル研修も含めて、研修を修了した効果が調

環境が整っていたとしても積極的に動きませんから、 る人たちは、それなりの実績を上げている人、熱心な も業務の間をぬって積極的に研修などに参加をしてい その後の効果までを調べるのは難しいですが、そもそ まずは修了証を送ってもらって、それに対してポイン 人たちではないでしょうか。意識が低い人は、 トを付与し、それを管理するシステムを構築します。 はじめからそのレベルまでの調査は難しいですね たとえ

うになるでしょう。 おのずと向上心の高い人たちにポイントが貯まるよ

研修ポイント制度を構築していくなかで、 員会)も効果がありそうですね。 祉用具専門相談員実力ランキングテスト実行委 門相談員実力ランキングテスト」(実施主体:福 ところでは2010年から始まった「福祉用具専

グテストの順位を載せるということを考えています。 ほしいですね 相談員』という専門職なのだという意識を強くもって ント制度などの仕組みをつくることで『福祉用具専門 わけですが、このようなランキングテストや研修ポイ 事業所 (所属)、各ポイントの実績のほかにランキン 福祉用具専門相談員はサービス事業者の一員である

公表されることによって福祉用具専門相談員と しての実力差がはっきりしそうですね。 各地ポイント数やランキングテストの順位など、

のスキルアップにつながるでしょう。 てお互いが向上していくことが大切ですし、 汰されていき、後者のみが残る。その中でまた競いあっ という人、どちらも存在します。前者はどんどん淘 者の利益のために少しでも多くの知識を身につけたい やグループワークなどやりたくないという人と、利用 かになっていくでしょう。研修で行われるような講義 いはかなり大きいですし、評価することでそれが明ら どの職種でもそうでしょうが、現在でもレベルの違 業界全体

平成24年度定時総会

とれからの介護はマンパワーと環境整備との協力体制

都千代田区))。 会が行われた(於:主婦会館プラザエフ 国福祉用具専門相談員協会平成24年度定時総 2012年5月29日(火)、一般社団法人全 (東京

名)。会員のほか、 決者65名、合計1177名(会員数1540 出席者数42名、 委任状1070名、 多数の賛助会員の方々にも 書面·

> 担当室長)による記念講演が行われた。 局振興課長)、宮永敬市氏(同福祉用具・住宅 会後は、中村秀一氏(内閣官房社会保障改革 改修指導官)にご列席いただいた。また、総 こ参加いただき、盛会となった。 来賓として、川又竹男氏(厚生労働省老健

これからの介護は、マンパワー 環境整備〟との協力体制で

用具と住宅改修の 中心だった介護について、福祉用具を使用することの 上げていく時代です。今まで介護者の〝マンパワー〟 ための努力をしてきました。しかしこれからは、 力体制が重要です」と述べた。 しています。それを現場において実現するには、 意味や利便性が認められる土壌が出来てきたと実感 開会の挨拶で山下理事長は、 、供給量を増やす、ことを課題とし、 ″環境整備″ ح 「福祉用具の業界では、 /マンパワー< その の協 福祉

す役割はとても 境整備。 大きい。 解決において

「環 が果た

介護の諸問題



山下 一平 氏 (やましたいっぺい) 本会理事長。今総会で平成 24年度も再任。決意も新た に豊富を述べた。

中で福祉用具専門 ″質の担保 ″。その

談員の今後の活

大きな意味を持つ。 持つ関係者にとって

動 相

は、

期 待・ 注 目

介護サービスの質の担保における 個祉用具の力に期待

う声があがった。その皆さんのサービスの質に対する 用具サービス計画に関しては、『ぜひ義務化を』とい 規制を緩和してくれという要望が出されますが、福祉 る」とは川又氏の言葉だ。「普通、事業者の方々からは、 福祉用具専門相談員の活躍する範囲は大変大きくな 意識の高さが、これを実現に導いたのです。 福祉用具サービス計画の義務化は、 福祉用具を使うということが1つのキーポイント。 施設ではなく住み慣れた地域で暮らしていく場 利用者や連携を

ら、

合

川又 竹男 氏 (かわまた たけお)

厚生労働省老健局振興課長

た。

◆ブロック長会議開催▲

長崎の東組みを登号にブロック活動を強化

頭では、 り、今年度モデル事業として行う「研修ポイント制度 に対する理解と協力が求められた。 定時総会に先立って行われたブロック長会議の冒 東京都ブロック長を兼任する山下理事長よ

る「横のつながり」をもっていきたい、としている。 設した長崎県の取組みが紹介された。長崎県では、 との要望が出された。 参考として、既存会員から個人情報の使用承諾を得 通知、連絡を行い、ブロック活動の本来の目的であ 会議を開催。今後、 で個別に了解を得た。5月25日には長崎県ブロック に提供することについて、本部経由で各会員に文書 本部が管理する県内の会員情報の一部をブロック長 ブロック長に提供するような仕組みを作ってほしい これを受けて各ブロック長からは、 続いて行われた意見交換では、今回ブロックを新 ブロック長から各会員に個別に 長崎県の例を

合わせる必要 その他、ブロック長の任期は、 本部の役員任期と



されている。

◆総会決議◆ 平成24年度新体制決定

増進等事業の助成を受け、 リーダー養成研修」と、「ケアマネジャーと福祉用具 り組んだ2つの主な課題とその具体的活動内容を中心 務化に向けての環境整備」。 に報告された。1つは「福祉用具サービス計画作成義 第1号議案の平成23年度事業報告では、 「個別援助計画の普及研修 厚生労働省老人保健健康 本会が取

> 具による事故防止に向けた環境づくり」で、 専門相談員の合同研修」を行った。2つ目は 祉用具専門相談員の連携研修」を行った。 政法人福祉医療機構の助成を受け、「訪問介護員と福 「福祉用 独立行

事19名、監事2名。新任の理事は次の4名(50音順) 第4号議案で承認された平成24年度の新体制は理

- ジャーナリズム分野教授 大熊由紀子氏(国際医療福祉大学大学院 医療福祉
- 川瀬健介氏 (福祉住環境コーディネーター協会 専務理事

長井充良氏(社団法人日本福祉用具供給協会

専務理事

社会保障・税一体改革について 内閣官房社会保障改革担当室長 中村秀一氏

◆記念講演◆

られる1時間であった。 り上げられている社会保障と税の一体改革について。 が続いており、国民的議論のテーマとしても大きく取 テーマは、5月29日現在、第180回通常国会で審議 中村氏は、社会保障の現状から、改革への問題点等に ついて数々のエピソードを交えて語り、 総会閉会後、 中村秀一氏による記念講演が行われた。 大変短く感じ

またしかり。 月)にもりこまれている後期高齢者制度の廃止法案も しかり。すでに今国会期中に提出すると大綱の素案(1 所得者の負担軽減しかり、 課題が多く残っている。国民健康保険、 るものもあるが、財源、国民経済の観点からは、 域包括ケアシステムの構築。制度としては進行してい 階的に行うとされている。介護については、おもに地 医療・介護サービスの見直しは2025年までに段 高額療養費制度の見直しも 介護保険の低 検討

> ながら時間切れとなってしまったが、「6月21日今国会 税制改正および社会保障番号制度については、

深い社会保障改革 の行方に注目して 題についても、 んの業務に関係が 論が出ます。皆さ 未だ審議中の諸問 結

ください」(同氏) 会期末までには **般社団法人全国福祉用具専門相談員協会** 成24年度定時総会 中村 秀一 氏 (なかむら しゅういち) 内閣官房社会保障改革担当室長

> ●本村光節氏(公益財団法人テクノエイド協会 が選出された(いずれも再任) 理事長には山下一平氏、副理事長には畔上加代子氏

【第2号議案◆平成23年度決算】 承認

【第3号議案◆定款の変更】承認

定款第21条第4項、 第24条、第31条の

部修正

親会にて参加者コメント

理事 (新任) 川瀬健介氏

とり、がんばっていきたいですね。 の指導を行っていますが、福祉用具とは両輪です。連携を 用具を使って、思いを実現する。私は、住環境の観点から 自分の思いをがまんしないというのも大切なこと。福祉 デパートに行きたいとか、映画館で映画を観たい、など を維持していくために、福祉用具を上手く使うことです。 超高齢社会のなかで大切なのは、元気高齢者がQOL

埋事 白澤政和氏

生じていますね。 られる福祉用具専門相談員と、出来ない人との差別化が 論も重要だが、まずは作らなければ。すでに計画がたて ビス計画書をもらっていません。計画の中味についての議 私の実感ですが、ケアマネジャーの3割は福祉用具サー

く人もいる。そのあたりがこれからの勝負ではないでしょ ふうに。それが一番の生きた計画です。しかし機械的に書 留意点などは、この人だからこういう注意が必要、という もっとも求められるのは「個別化」できるかということ。

理事長 山下一平氏

いるいうことは大変うれしいことです。。 ジャーさんたちにも、情報が伝わり、評価していただいて すね。福祉用具の業界だけの自己満足ではなく、ケアマネ をたてるのと同じ視点でご利用者に対する、ということで (白澤氏の言葉を受けて) ケアマネジャーがケアプラン

ます。現場はすでに大きく動いているんですから。 ますがそこまで先延ばしにしているようではだめだと思い 制度上では、 来年の3月までに、ということになってい

| | 普及リーダー養成研修◆修了者 インタビュー | | |

※管及リーダー養成就修 受講後の活動レポート 地域のリーダーとして何をすべきか?新たに見えてきた目標は

地域での研修等企画・運営においてはすでにベテラン。リーダー研修で学んだものは?

というベテランである。 経験もある。現在の会社での勤務経験も15年目になるの営業を始める前には7年間の施設職員としての勤務の営業を始める前には7年間の施設職員としての勤務

た提案や指導を行えることは大きな強みだ。
介護現場の経験があるために、実際の経験に基づい

か。――自社内での勉強会を行うペースは決まっています

方について研修会を行いました。として、県内の事業者向けに、サービス計画書の書き小形◆4ヶ月に一度。先日はふくせん青森県ブロック

ですが。 ――地域の事業者向けの研修会をも開いているそう

人はどうぞ、というかたちです。テーマで、午前と午後同じ内容で行い、時間があうます。新製品の説明や体位変換の仕方など実務的なとヘルパーに対して無料の研修会を継続して行ってい小形◆実は、平成16年から月に1回、ケアマネジャー

方々には大分知られているでしょうね。――月に1回で、8年目に入るということは、地域の

らえるというふうに認知していただいています。各事いでしょうか。月1回何かしら新しいことを教えても全部に声をかけているのですが、平均20~30人くら軽に参加してくれます。近くの会場を借りて、市内小形◆たまたま近くにきたから寄っていこうか、と気

常務取締役株式会社(青森県)

小形比呂史氏



出がだせるようです。 業所でも、そのような勉強会等に出席した、という届

きなどはあったのでしょうか。 養成研修に参加されていかがでしたか?さらなる気づ会の企画・運営を行っている方としては、普及リーダー公のは大変いいことですね。ところで、すでに研修いるのは大変いいことですね。ところで、すでに研修

れば、他の者もどんどん受けるべきだと思います。ダー研修に私も含めて3名参加しましたが、機会があまっていて活発な意見交換、議論が行われていました。まっていて活発な意見交換、議論が行われていました。また、自分たちは扱ったことがない福祉用具が提案さまた、自分たちは扱ったことがない福祉用具が提案されば、他の者もどんどん受けるべきだと思います。

いかがですか?――地域で研修会を行う際の講師役育成という面は

ればいいなと。 を受けたんですから、そういった経験を生かしていけ、 講師をやらせてみようか、と思います。せっかく研修 えていて、そのときには、リーダー研修を受けた者に 小形◆今度ケアマネジャーとの合同研修をしたいと考

ていけることだろう。と、講師とがそろえば、研修事業もよりスムーズに行っと、講師とがそろえば、研修事業もよりスムーズに行っ企画・集客も含めて地域への働きかけを行う事務局

地域との協力体制を強化し講師デビュー。今後もさらなる展開を目指す

だ2人にとって、普及リーダー養成研修はどうだっただ2人にとって、普及リーダー養成研修はどうだった入社14年目、15人を超す所員を預かる営業所長である。営業所内での勉強会や日々の業務の中でケアマネジャーに説明することはあっても、野沢氏は公開研修ジャーに説明することはあっても、野沢氏は公開研修が用具専門相談員やケアマネジャーに対しての研修社14年目、15人を超す所員を預かる営業所長である。とはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場として臨んは行ったことはなかった。指導すべき立場というにある。

のだろうか。

―リーダー研修を受けてどうでしたか?

ということを改めて認識しました。
ントの重要性、どこに着目してご利用者を見ていくか、感じました。福祉用具を提供していく上でのアセスメ
用具貸与サービスというもののとらえ方が変わったと野沢◆福祉用具サービス計画書だけではなく、福祉

気込みが非常に感じられる研修会でした。受講するだ竹崎◆ここがゴールではなくスタートなんだという意

けでなく、次に伝えていこうという意気込みが感じら 負けていられないなと思いました。

Ī

Ī

i

Ī

たのは、 野沢◆公開募集 たそうですね。 講師を務めら 修 して研修を行っ 会 受講 で開 5 月 16 後、 催 Ļ れ 研

福祉総合相談セ 日です。 主催は岐阜県



ンター。 マネジャーが1名でした。 した。 計画書の重要性や作成のポイントを周知する活動を 専門相談員とケアマネジャー双方に福祉用具サービス ターの郷和子さんと、 参加者は、福祉用具専門相談員が32名、 リーダー研修に参加した福祉総合相談セン 企画を煮詰めていって、開催に至りま 普及リーダーとして、 福祉用具

受講者の反応はどうでしたか?

野沢◆アンケートの結果では、福祉用具サービス計 ながったと感じました。 やすかった」という意見を多数いただきました。 たこともあり「とても勉強になった」「非常にわかり 画書の作成研修会を初めて受けたという人が多かっ 初めて講師を務めて勉強になりましたし、

講師デビューで30名以上の受講生、 大分緊張され

野沢◆緊張しましたね。ですが竹崎さんがきてくれ を積んでいこうという人ですので。 ていたので、心強かったです。一緒に講師として経験

Ī

Ī

Ī

ĺ

る理解が非常にあるそうですね。 滋賀県は県や社会福祉協議会の福祉用具に対す

すね。 たんです。 らその後、 修を受けました。受ける前から、 研修の話をしたら非常に興味をもってくれ、2人で研 さる田淵さんという方がいらして、 竹崎◆年間通じて、専門職ごとの研修会を行っていま 野沢さんの所の郷さんのような役割をしてくだ 我々で研修会を開こう」という話をしてい 「研修を受けてきた 普及リーダー養成

のように始めたん ですか? 具体的にはど

ランなので、 ポイントはケアプ 4回行いました。 竹崎◆3月に合計 マネジャーに福祉 ケア

用具サービス計画

大津営業所長 株式会社ヤマシタコーポレーション 竹崎修二氏

今話し合っているのは、

年間のケアマネジャ

福

ジャーと福祉用具専門相談員別々でなく、 ク 用具サービス計画書の作り方についてのグループワー ビス計画の位置づけ」。2回目以降は、具体的な福祉 ました。1回目は「ケアプランの中での福祉用具サー の重要性を理解してもらうことが大切です。 (演習)。参加者は述べ200名強でした。 合同で行い ケアマネ

います。 もご参加いただきました。非常に大きな成果だと思 地域包括支援センターの方とか、介護保険課の方に また、行政側(保険者)の理解も大事だということで、

ことは大事」、また「ケアプランの中で福祉用具の位 まで福祉用具サービス計画書は無かったんだろう」、 竹崎◆まずは「大変だな」「難しい」。ただ、「なぜ今 .いままでは口頭で聞いていた選定理由を書面に残す 全国に先駆けての展開ですね。受講者の反響は?

> 置づけは重要」という声をいただきました。そういっ たところに非常に手応えを感じましたね

モデルケースになりそうな進め方です

高めて、 思います。 さんや行政の方は、 けた方も実際に現場でどうだったのか、ケアマネジャー みて出てきた疑問点などのフォローアップをやりたいと の方に参加していただけました。今後は、 でにお持ちでしたし、県が開催するということで、多く 竹崎◆田淵さんのところで研修会開催のノウハウはす 意見を持ち合いながら研修を行って、 全国に発信していきたいと思います。 自分も勉強したいですし、3月に研修を受 その後どう感じておられるのか、 実際に作って 滋賀県で ŧ

研修リーダーとして協力するということで。 ス計画を入れようということです。 祉用具専門相談員それぞれの研修に福祉用具サー 今回話をうかがった3名の今後の活動、 もちろん、 またそれに Ė

続く普及リーダーたちの活躍に多いに期待したい。



講師を務め、「リーダーとしての自分の役割を再認識し、一歩階段がのぼれたかなあ」と思ったという2名のリーダー。「受講した方に福祉用具専門相談員にはここまで求められているんだ。自分もやろう!と共感してほしい」。



題々広括用法。効果が期待できる。どやり。ハット事例は家

| 公益財団法人テクノエイド協会の活動

ト事例検索」である。 して、4月から同協会のホームページで展開しているのが「ヒヤリ・ハッ 公益財団法人テクノエイド協会が平成23年度に行った助成事業の成果と

事業所の声も聞かれる。 解説と参考要因とが1枚にまとめられている。本会会員の間でも話題に なっており、すでに利用者への説明時のツールとして使用しているという 福祉用具の使用に関するヒヤリ・ハット事例がイラストで表され、その

この検索システムを構築した企画課長五島清国氏に話をうかがった。

福祉機器にかかわる事故防止には 起る可能性』の情報共有

提出を求めて原因と背景を検証すると と情報を整理し、情報を分析・加 事例を集め、「場面」と「環境」と に加え、現場へのアンケートによって したら、大変な時間と労力がかかりま 介護保険制度の中で、事故原因等の そこでNITEで公表された情報 本事業の背景を教えてください。

うやく具体化できました。 様の事業を行った時点では、提言 ではなく、「こんなことが起こる にとどまっていたものが、 共有することです。平成20年に同 可能性がある」ことを情報として 「実際にどんな事故が起きたのか_ いるものもあります。重要なのは、 た事例とは異なった内容になって 工しました。ですから、もとにし 今 回

、見せ方を のボイント

なっています。「種目」や ら説明するシーンを想定したつくりに が 起り得るのか検索できるそうですね。 携帯端末を使って、現場で見せなが ホームページ、からどんな、ヒヤリ

フリーワード 種目 用具の種類 122106 181209 ▶詳細 122106 181209 ▶詳細 181209 181218

企画課長

企画部参与

ヒヤリ・ハット事例検索

万息清国氏

加藤智幸氏

ド」と「車いす」で検索し、

るので、例えば

「電動ベッ

|用具の種類| で検索でき

説明が くなりますね。 くなります。そ その福祉用具に く、質問がうか けるだけでな れは理解を助 ることで具体的 相談員は追 しょう。 ぶ場合もあるで に想像しや しや すると f

ができます。。 それを見せながら説明すること

しいように感じたのですが められているとはいえ、少し 参考要因の文章は短くまと 厳

用者自身が気をつけなければい 時代がきます。 けない」ということを意識する 意図的にそうしてあります。「利 ためにそういった表現にしています。 今後、介護職関連の方では 一般の方が自分で検索する それを想定し、 な

福祉用具専門相談員への期待

方をしてほしいですか ||祉用具専門相談員にはどんな使

明にも活用してほしいですね。プリン ビス計画書の留意点やご利用者への説 トアウトして、お渡ししてもいいでしょ 情報の共有はもちろんですが、 う。ご利用者 もイラストを見 サ

> だきたい。 ことに気をつければいいのかをより具 けでなく、 めには、 体的にあげて、 また、 利用者を取りまく関係者の 「その方の場合」 理解してもらっていた にはどん

険予知がかかせないと思います。 福祉用具を安全に利用するた



ふくせん

ふくせんレポート 第 005 号

発行所

ついての説明だ

写真左:

写真右:

公益則団法人テクノエイド協会

同

全国福祉用具専門相談員協会 -般社団法人 東京都港区高輪 3-19-20 高輪 OS ビル 9F 〒 108-0074

: 03-3443-0011 FAX : 03-3443-8800 URL: http://www.zfssk.com/

編集協力 株式会社 東京コア 2012年9月1日